

平成24年度公共事業事後評価調書

1. 事業説明シート(1)

(区分) **国補**・県単

<b>事業名</b>	畑地帯総合整備事業(国補)		<b>事業箇所</b>	笛吹市一宮町末木		<b>地区名</b>	一宮末木	<b>事業主体</b>	山梨県
<b>(1)事業着手年度</b>	H8年度	<b>(2)事業期間</b>	H8年度~H19年度	<b>(3)完了後経過年数</b>	5年	<b>(4)総事業費</b>	1,888百万円		
<b>(5)事業着手時点の課題・背景</b>						<b>(8)事業位置図等</b>			
<p>本地区は甲府盆地の東部に位置し、一級河川笛吹川の支流である金川の右岸で中央自動車道と国道20号線に挟まれた北向きの緩傾斜地で、あり、ぶどう、ももを基幹作物とする果樹地帯である。</p> <p>この地域の農道は狭小で路面も痛みが激しいため、通作や集出荷に支障を来していた。また、排水路も老朽化し整備が進んでいないため、排水不良や溢水被害が発生していた。</p> <p>果実郷である一宮町の中でも整備が遅れている本地区で、生産性の向上と品質の向上を図るため、農道の整備や排水路を改修し、荷傷み防止や溢水被害を防止することが緊急の課題となっていたため、本事業を実施した。</p>						省略			
<b>(6)事業着手時点で想定した整備目標・効果</b>									
(事前評価未実施)									
<input type="checkbox"/> <b>主要目標</b> ・農業生産力の向上  <input type="checkbox"/> <b>副次目標</b> ・農業用排水能力の向上  <input type="checkbox"/> <b>副次効果</b> ・果樹園景観の保全 ・農地の保全									
<b>(7)整備内容(目標達成の方法)</b>									
農道 (15路線) L=5,288 m W=4.0 m  排水路 (7路線) L=3,054 m W=0.6~1.0m									

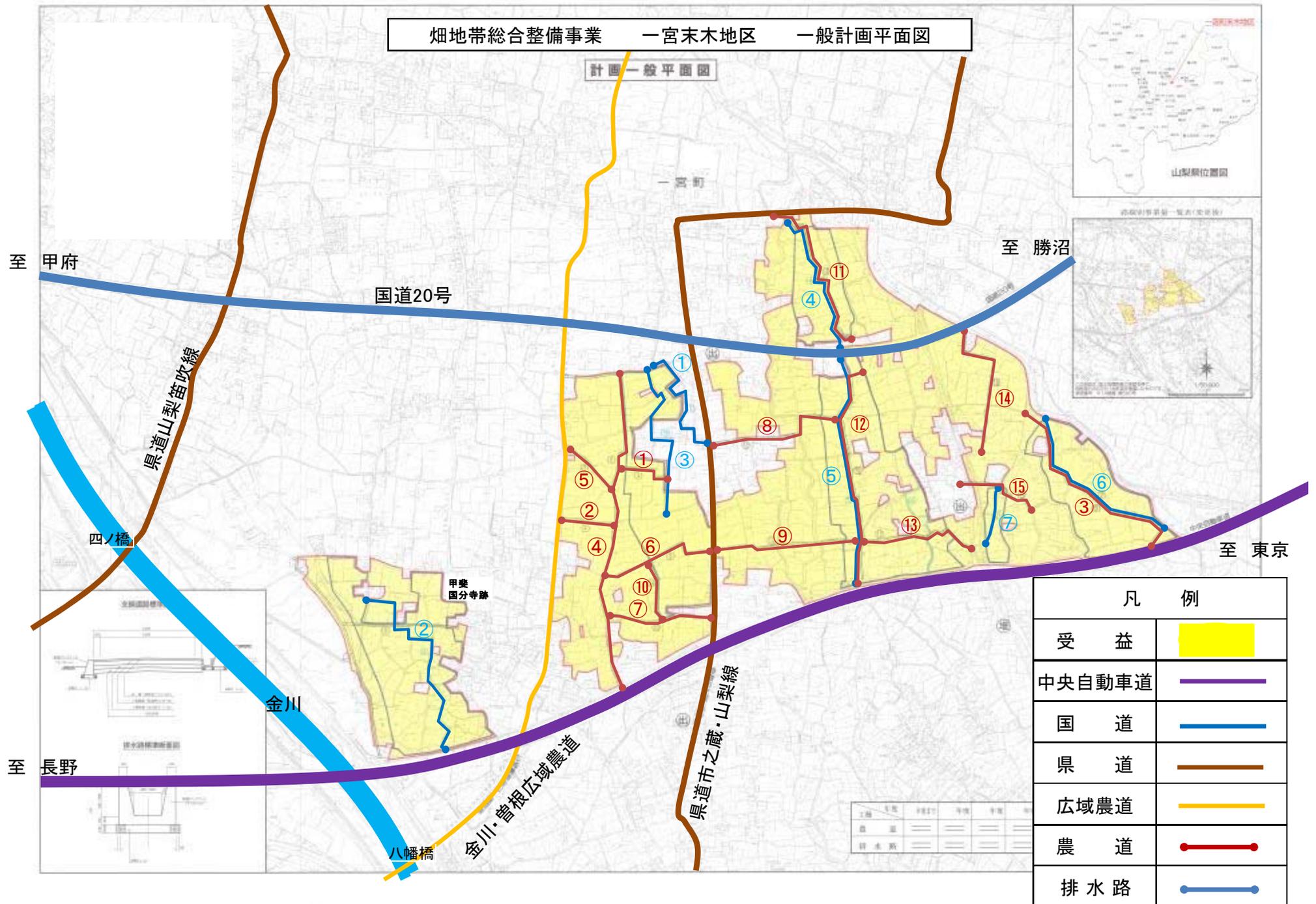
2. 評価シート（1）

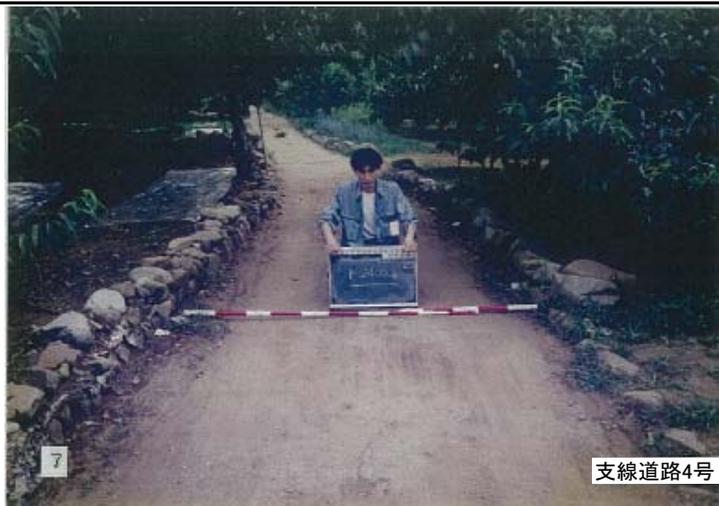
<p><b>(1)事業貢献度</b> &lt; (良) ・ 不良 &gt;</p> <p>(理由)          本事業で農道や排水路が整備されたことにより、農産物の増収、品質の向上、営農労力の軽減等が図られ、農業所得が増加し、地域農業経営の安定に大きく貢献している。</p> <p>① 主要目標 農業生産力の向上</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>指標</th> <th>着手時点数値等</th> <th>評価時点数値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>農業所得の増加額</td> <td>351千円/ha→設定せず</td> <td>945千円/ha</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table> <p><input type="checkbox"/> 評価時点の数値に対する評価          ・ 農業所得の増加額が、評価基準値351千円/haを上回っている。</p> <p>② 副次目標 農業用排水能力の向上</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>指 標</th> <th>着手時点数値等</th> <th>評価時点数値</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>用排水能力向上率</td> <td>設定せず</td> <td>2.26</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td> </td> </tr> </tbody> </table> <p><input type="checkbox"/> 評価時点の数値に対する評価          ・ 排水路の整備により、排水能力向上率が2.26となり、基準値1.0以上を満たしている。</p> <p>③ 副次効果 農地の保全</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>果樹園景観の保全</td> <td>果樹栽培が維持されることにより、良好な果樹園景観が維持されている。</td> </tr> <tr> <td>農地の保全</td> <td>排水機能が改善されたことにより、水路の溢水による表土の流出が無くなり農地が保全されている。</td> </tr> </tbody> </table> <p>④ その他の事業効果の発現状況          ・ なし</p>	指標	着手時点数値等	評価時点数値	農業所得の増加額	351千円/ha→設定せず	945千円/ha				指 標	着手時点数値等	評価時点数値	用排水能力向上率	設定せず	2.26				項 目	内 容	果樹園景観の保全	果樹栽培が維持されることにより、良好な果樹園景観が維持されている。	農地の保全	排水機能が改善されたことにより、水路の溢水による表土の流出が無くなり農地が保全されている。	<p><b>(2)費用対効果分析の算定基礎となった要因等の変化</b> &lt; (有) ・ 無 &gt;</p> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; margin-bottom: 10px;"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>着手時点の計画</th> <th>事後評価時点の実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>総事業費</td> <td>1,595百万円</td> <td>1,888百万円</td> </tr> <tr> <td>工 期</td> <td>H8~H12</td> <td>H8~H19</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">経済効率性</td> <td>費用</td> <td>1,595百万円</td> </tr> <tr> <td>便益</td> <td>2,012百万円</td> </tr> <tr> <td>B/C</td> <td>1.26</td> </tr> <tr> <td> </td> <td> </td> <td>1.10</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 平成16年度再評価地区          総事業費1,995百万円、工期H8~H18に見直し</p> <p>(要因変化の分析)          ・ 総事業費： 詳細設計による擁壁工の増、及び路線の見直しによる橋梁工の追加により事業費が293百万円の増となった。          ・ 工 期： 市負担金の制約など年度予算の計上が厳しかったことと、用地買収の遅れによる7年間の工期延長。</p> <p><b>(3)事業実施による環境の変化</b> &lt; (有) ・ 無 &gt;</p> <p>①自然環境への影響          ・ 営農条件が改善されたことで、耕作放棄地の発生が未然に防止されたことから、果樹園のおりなす良好な景観が保全されている。</p> <p>②生活・居住環境等への影響          ・ なし</p> <p>③環境保全対策の効果の発現状況（措置を講じた場合）          ・ なし</p>	項 目	着手時点の計画	事後評価時点の実績	総事業費	1,595百万円	1,888百万円	工 期	H8~H12	H8~H19	経済効率性	費用	1,595百万円	便益	2,012百万円	B/C	1.26			1.10
指標	着手時点数値等	評価時点数値																																										
農業所得の増加額	351千円/ha→設定せず	945千円/ha																																										
指 標	着手時点数値等	評価時点数値																																										
用排水能力向上率	設定せず	2.26																																										
項 目	内 容																																											
果樹園景観の保全	果樹栽培が維持されることにより、良好な果樹園景観が維持されている。																																											
農地の保全	排水機能が改善されたことにより、水路の溢水による表土の流出が無くなり農地が保全されている。																																											
項 目	着手時点の計画	事後評価時点の実績																																										
総事業費	1,595百万円	1,888百万円																																										
工 期	H8~H12	H8~H19																																										
経済効率性	費用	1,595百万円																																										
	便益	2,012百万円																																										
	B/C	1.26																																										
		1.10																																										

評価シート（2）

<p>(4) 社会経済情勢の変化が事業に及ぼした影響 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無</p>	<p>(7) 同種事業の計画・調査のあり方の見直しの必要性 <input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無</p>
<p>① 社会経済状況の変化 ・なし</p> <p>② 関連計画・関連事業の状況の変化 ・なし</p> <p>③ 事業環境等の変化 ・なし</p>	<p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一部、地元の理解を得ることに時間を要したところがあり、工期が7年延伸し平成19年度の完了となった。</li> </ul> <p>(具体的反映策)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今後の事業実施にあたっては、計画的な予算配分を行うとともに、用地補償交渉を一層綿密に行ない時間管理の徹底を図っていく。</li> <li>事業の計画や調査にあたって、ワークショップ手法などにより、地域の合意形成を図っていく。</li> </ul>
<p>(5) 今後の事後評価の必要性 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無</p>	<p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>今回の事後評価において、農業所得の増加額などが基準値を上回り十分な効果が発現されているため、今後の事後評価は必要ないと思われる。</li> </ul> <p><input type="checkbox"/> 「有」の場合の実施時期及び方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時期： 年度</li> <li>・方法：</li> </ul>
<p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>なし</li> </ul> <p>(具体的改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>なし</li> </ul> <p>(既に実施した改善策の内容と効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>なし</li> </ul>	<p>(8) 事業評価手法の見直しの必要性 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無</p> <p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>なし</li> </ul> <p>(具体的反映策)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>なし</li> </ul>
<p>(6) 本事業における改善措置の必要性 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無</p>	<p>(9) その他特筆すべき事項 <input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無</p>
<p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>なし</li> </ul> <p>(具体的改善策)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>なし</li> </ul> <p>(既に実施した改善策の内容と効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>なし</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>なし</li> </ul>

3. 添付資料シート(1)



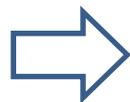


支線道路4号

着手前

未舗装で軽トラックがぎりぎりの幅員しかなく、農作業の大きな障害となっていた。また、雨水が路面上を流れ路面を痛め、耕地へも流出していた。

農道



完成後

農耕車が容易にすれ違える幅員を確保し、農作業の利便性が向上した。また舗装によって荷傷みも減少した。併せて道路側溝を整備したことにより排水機能が向上し耕地が保護された。



支線道路9号

着手前

未舗装で軽トラックがぎりぎりの幅員しかなく、生産物の荷痛みや、通作などの大きな障害となっていた。



完成後

農耕車が容易にすれ違える幅員を確保し、農作業の利便性が向上した。また舗装によって荷傷みも減少した。



完成後  
排水路、農道の整備により営農条件が改善され、耕作放棄地の発生が抑制されている。  
それによって、豊かな果樹園景観が維持されている。